

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 85人 国語B 85人

② 算数A 85人 算数B 85人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

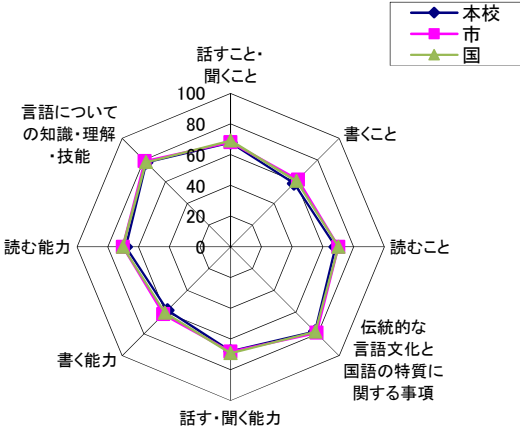
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

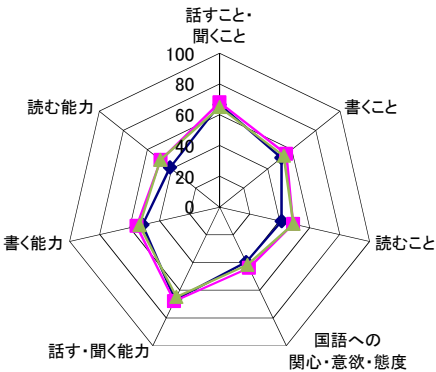
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	67.9	68.2	69.2
	書くこと	58.3	62.0	60.6
	読むこと	68.3	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.8	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	67.9	68.2	69.2
	書く能力	58.3	62.0	60.6
	読む能力	68.3	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	77.8	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	68.0	64.9
	書くこと	51.4	55.3	53.4
	読むこと	41.3	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	39.7	43.9	41.7
	話す・聞く能力	66.7	68.0	64.9
	書く能力	51.4	55.3	53.4
	読む能力	41.3	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

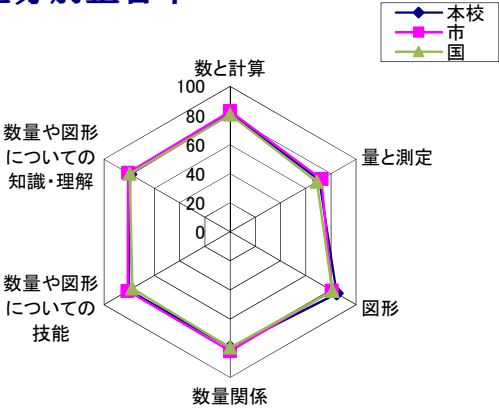
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図的に応じて、適切な言葉遣いで話す」に対する正答率はやや高い。 ●「互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合う」に対する正答率がやや低い。	・学習の中でペアやグループでの学び合いの場を設け、課題について話し合う機会を多く経験させ、互いの話から共通点や相違点に着目し話し合うことができるように支援する。 ・朝のスピーチなどで、質問や感想を伝える場を設けることで、伝え合う楽しさを感じながら目的に応じて主体的に話す意欲や聞く力を育てるようにする。
書くこと	○「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」に対する正答率が高い。 ●「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」に対する正答率がやや低い。	・国語の「書くこと」の単元においては、書く目的を明確にし、誰に対して書いているか立場を考え相手意識をもたせる。さらに、筋道を立てて分かりやすく整理しながら書けるように指導する。 ・物語や随筆、日記、新聞、など様々な形式で文章を書く機会を設け、論理的に書いたり創造的に書いたりできるようにする。
読むこと	○「目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む」に対する正答率はやや高い。 ●「俳句の情景を捉える」に対する正答率が低い。 ●「自分の考えを広めたり深めたりするための発言の意図を捉える」に対する正答率が低い。	・国語の「読むこと」の単元においては、叙述に即して人物同士の関係を捉えたり、心情の変化を読み取ったりする学習を丁寧に行う。 ・句会を行うことで俳句に対して興味関心を高める。互いの俳句に対して思ったことや感じたことを伝え合う学習を取り入れることで、俳句の情景を捉えられるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む」に対する正答率が高い。 ●「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」に対する正答率は低い。	・習得した漢字や語句を文章で進んで使うよう、日常生活の中で継続的に指導する。 ・単元ごとに出てきたことわざや慣用句を文章の中で使う練習をすることで、意味や使い方を理解できるように指導する。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

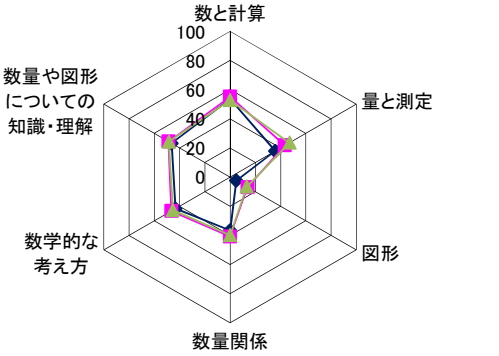
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	81.3	82.9	80.6
	量と測定	70.8	72.5	68.8
	図形	84.5	80.8	81.1
	数量関係	79.5	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	80.4	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	79.4	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	53.6	55.1	52.8
	量と測定	35.7	43.4	47.0
	図形	4.8	13.8	13.2
	数量関係	36.6	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	43.3	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	46.4	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数と整数の加法の計算をする問題での正答率が高い。 ○示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを図に表現する問題の正答率が高い。 ●小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考える問題での正答率が低い。 ●加法と乗法の混合した計算の正答率が低い。	・計算プリントや計算ドリルに繰り返し取り組ませ、様々な計算の技能を確実に身に付けられるようにする。 ・グループやペアでの話し合いを意図的に行うことで乗法の性質を理解し、説明できるようにしていく。 ・計算をする上で、簡単に素早く正確に計算できる方法を考えさせる。
量と測定	○重さや長さの任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ問題の正答率が高い。 ●高さが等しい平行四辺形と三角形について底辺と面積の関係を理解して解答する問題の正答率が低い。 ●飛び離れた数値を除いた場合の平均を求めたり、仮の平均の考え方を活用して測定値の平均を求めて解答する問題の正答率が低い。	・授業中に暗唱させ、ノートに書かせる機会を増やし、公式をきちんと身に付けさせる。 ・平均の求め方を考え、グループやペアで説明させる機会を意図的に増やすようにする。
図形	○円を使って正五角形を書く方法についての設問は正答率が高い。 ●立方体の示された図から示された面と平行な面を選ぶ問題での正答率がやや低かった。	・平面図形や立体図形の面や辺の位置関係を、具体物を操作することで理解できるようにする。 ・図形の組み合わせや立体の見取り図などを簡単な図に表すことができるように、機会を見つけ意図的に描かせるようにする。
数量関係	○資料から表に分類・整理する問題はほぼ全国平均を上回っている。 ●身近なものに置き換えた基準量と割合を基に比較量を判断し、その理由を記述する問題の正答率が低い。	・具体的な数値を別な数値に置き換える経験を意図的にさせることで、単位量との関係を理解できるようにする。 ・資料から読み取れることをグループなどで話し合わせ、数値が示す意味や数量の変化を理解できるようにする。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して、1時間以上の学習をしていると回答した児童は71.8%で、全国の割合より7.1ポイント高く、「土曜日や日曜日など学校がお休みの日」についての同様の質問に対しても、1時間以上の学習をしていると回答した児童は64.4%であり、全国の割合より7.1ポイント高い。

○「宿題をしていますか」に対しては、児童の肯定的回答が100%であり、全国の割合より3.1ポイント高い。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対する児童の肯定的回答は73%で、全国の割合より8.5ポイント高くなっている。また、家で予習、復習に取り組んでいる児童の割合も、全国の割合より高い。

この結果から、家庭学習の習慣は定着してきていることが分かる。今後とも、継続的な自主学習への取り組みを奨励していくとともに、さらに、自分で課題を決めて、いろいろな教科を計画的に学習できるように声かけを行っていく。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」の児童の肯定的回答は、96.5%であり、全国の割合より2.2ポイント高く、「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか」の児童の肯定的回答は、88.2%であり、全国の割合より2.7ポイント高い。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」に対する児童の肯定的回答は47%であり、全国の割合より5.2ポイント低くなっている。

このことから、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことはできるが、その考えを発表することに苦手意識がある児童が多いことが分かる。ペアや小グループでの伝え合いや話し合い活動を意図的に設定するなど、苦手意識をなくすようにしていく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の児童の肯定的回答は、100%であり、全国の割合より3.9ポイント高い。また、「人が困っているときは、進んで助けますか」の児童の肯定的回答は、90.6%であり、全国の割合より5.3ポイント高い。

今後も、いじめは絶対に許されないことであるという意識をしっかりと持たせたい。また、道徳や学級活動の授業、縦割り班活動などの異学年交流などを通して、人との関わりの心地よさを実感できるように指導していきたい。

宇都宮市立横川西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学力を向上させる工夫	机間指導等において一人一人を丁寧に見取って指導したり、算数では少人数指導やTT指導を行ったりすることで、個に応じた指導の充実を図っている。また、児童が見通しをもって主体的に取り組むことができるように、学習展開を工夫している。	言語についての知識・理解・技能や、数量や図形についての技能など、基本的な知識や技能に関わる問題の平均正答率は、他の領域に比べて高くなっている。
書く力を身に着けさせるための工夫	授業の中で、自分の考えを書く場を意図的に設定している。また、授業の終わりに、分かったことなどを振り返り、ノートに書く時間を設けている。	他領域に比べて平均正答率がやや低くなっている。
家庭学習の定着を図る工夫	3～6年では、家庭学習ノートを用いた自主学習に学年に応じた目標時間を取り組んで、提出するよう指導している。また、学年に応じた「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の習慣化を図れるよう、家庭にも協力を仰いでいる。	「宿題をしていますか」に肯定的に回答した児童の割合は100%で全国の割合より3.1ポイント高い。「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に対する児童の肯定的回答は73%で、国の割合より8.5ポイント高くなっている。